社団法人　京都府情報産業協会

INTERKYOTO
インターキョウト

2003.1.30　No.17

社団法人京都府情報産業協会
発行：企画広報委員会

特別企画

新春特別対談

京都の情報化と産業の活性化

山下 晃正 氏
京都府商工部産業活力支援室長

北村　昱 氏
社団法人京都府情報産業協会会長

リテラシー意識を高めて府民生活を向上

北村　京都府情報産業協会では、平成13年4月に社団法人として活動を始めたときから、「地域社会への貢献」を理念に掲げ、高度情報化社会の中でデジタルデバイド（情報格差）をなくすために、地域社会の情報化を促進して、府民生活の向上を図っていきたいと考えています。デジタルデバイドの要因はいくつか考えられますが、最も大きな問題はやはり「地域格差」ではないでしょうか。インフラ整備が進んだ都会と、そうでない地方との間には大きな格差が横たわっています。そういう意味で、平成15年度は地方を中心にインターネット講習会や情報発信の勉強会を開ければと思っているんです。地域に貢献する、そしてデジタルデバイドをなくすという理念に向かって、もっと具体的に取組み事業を絞っていきたいですね。

山下　デジタルデバイドは確かに大きな問題ですが、理想を言えば、だれもがコンピュータを意識せずに活用できる情報システムが作られることだと思います。マンマシンインターフェイスを使える、使えない

という問題は、それこそ京都府情報産業協会に参加されている企業の皆さんが協力して、ソフトウェアやハードウェアの開発などによって解決していただきたいと思いますね。

北村　おっしゃるとおりですね。現在、京都府情報産業協会に加入している約60社の企業は、ITを利用する側でなくITそのものを提供・発信するメンバーが多いので、私たちが中心となって技術的な問題を解決していく必要があります。また、それらを解決することが新たなビジネスチャンスにつながるのではないかと思います。

山下　本当の意味でのデジタルデバイドというのは、情報が入ってきても何も感じないとか、入ってきた情報をどう活用していいのか分からないというところにあるのだと思います。もちろん、私たちも情報の真意を判断できるようなシステムを考えなければなりませんし、情報リテラシー教育を進めていく必要もあります。いまの不十分な情報化技術と情報の受け手側のリテラシーの問題、この両面から何らかのアプローチをしていきたいと考えています。

「若い感性を生かした行動力ある団体を目指したい」と北村会長。

北村　先般、国から約500億円の補助金が国民のIT教育のために支出されましたね。これまでにおよそ550万人がIT講習会などに参加され、ワードが打てるようになったとか、エクセルが使えるようになったという人も多いようです。私たちとしても、情報リテラシーを高めるために活躍していただける人材育成を支援する仕組みができないかと思っているんです。

山下　高校で「情報」教育が本格的に始まるなど教育分野でもリテラシー教育が充実されますが、例えば小学校で1人1人の生徒にきめ細やかな情報教育を行うためには、先生を補佐する「アシスタントティーチャー」がどうしても必要になってきます。そこで、教職を目指している学生にアシスタントティーチャーとしての能力を身につけさせて、学校現場に入ってもらうという実験を京都造形芸術大学と小学校との協力で実施しました。子どもたちは先生に聞きにくいことでも、比較的年齢が近い学生さんに気軽に質問するなど非常に楽しそうでしたね。情報をどのように活用して、どのように発信すれば何が起こるのかということを子どもたち自身が実感できたのではないかと思います。ワープロ講習会を開くのも大切なリテラシーですが、一方で次世代の核となる若い人たちがリテラシーや情報活用を肌で体験できるようなインターンシップを、もっと皆さんの企業で受け入れていただきたいですね。情報化の最前線と日常生活との間には大きな隔たりがあるので、その差を埋めるような取組みができるのではないかと思います。

北村　教職を目指す学生さんや理系の学生さんたちを起用して、ボランティアとして地域のIT指導者になっていただくというのは素晴らしいアイデアですね。パートナーシップの時代といわれますが、私たちとしてもいろんなアライアンスの可能性を探りながら情報化促進のお役に立っていきたいと思います。

若さを押し出した活力ある協会を目指して

北村　平成14年度は、京都府の「京都ITバザール構想」との連携によりソフト系IT産業推進調査事業を実施したり、京都市の「京都ONE構想」に取り組むために京都情報基盤協議会に加入して、京都の情報通信ネットワークの向上を進めてきました。平成15年度に向けて、京都府として私どもに期待されておられる

こと、望んでおられることなどがあればぜひお伺いしたいと思います。

山下　そうですね。せっかく情報化の根幹を扱っている企業が集まっておられるのですから、その部分のノウハウを活用していただきたいと思います。私たちは「生活文化提案型産業」といっていますが、例えば高齢者にも使いやすいパソコン端末の開発であるとか、携帯電話が通じにくい山間部で何かユニークなことができないかとか、私たち行政サイドでは見えにくい、民間的センスを持った社会問題の解決策のようなものが出てくると非常にありがたいですね。もっと生活感のあるところから汲み上げたニーズを提案していただければ、京都の優れたものづくり技術と連動させることによって新しい可能性が広がっていくのではないでしょうか。

北村　次年度に向かって、もっと生活者の視点に立ったニーズに聞き耳を立てることが必要ですね。協会としてチームワークで対応していけるような仕組みを作っていきたいと考えています。個性豊かなメンバーが揃っていますので、それぞれの企業特性を生かしながら、いろんなことができるのではないでしょうか。

山下　中小企業のIT機器の普及率は一定のレベルにありますが、それを使って何をするかというところには工夫の余地が多いと思います。例えば、私どもが支援している取組みの1つに、京都のものづくり企業10社が参画している「京都試作ネット」というのがあります。これは、試作という商品ターゲットをインターネットで受け付けて、それを1つの形にして納品するというB to Bのビジネスモデルです。会員企業がネットワークで情報を共有していて、クライアントから問い合わせが入ったら2時間以内にその注文を受けるか受けないかを返事するクイックレスポンスが魅力となっています。私はITというのはあくまでプラットフォームだと思っているんです。そのプラットフォームを使って何をするのか、どのように市場をリードしていくのかということが非常に重要ではないでしょうか。企業経営や社会生活の中に情報そのものをビルトインできるような仕組みをもっと考えていただきたいと思いますね。

北村　情報化の現場に出かけていって、そこで問題点や疑問点を引っぱり出すという作業は大切なことですね。世の中で困っていることを解決していくというようなソリューション型のアプローチに取り組んでいきたいと思います。

山下　そうですね。京都府情報産業協会のメンバーの皆さんがそれぞれ知恵を出して、問題解決型のところへアライアンスを組んでいただけることを期待しています

北村　私どもの基本理念である「地域への貢献」を実践していくために、会員企業の若いアイデアや感性、バイタリティを前面に押し出しながら、行動力のある団体にしていきたいと考えています。具体的には、30代、40代のメンバー交流の場をもっと増やして、リスクマネジメントや品質管理などの問題について意見交換をしてもらう。その中からメンバー同士の交流が生まれ、新たな事業アイデアなどが育たないかと思っているんです。

山下　なるほど、それは素晴らしい考えですね。例えば、B to Cに取り組んでいる中小企業の中には、せっかくwebを作ったのに全然反応がないとか、新たな顧客管理システムを組みたいとか、いろんな問題を抱えておられるところが多いようです。そうした中小企業と京都府情報産業協会の若手メンバーが懇談する機会を設けることができれば、協会としても新たな活性化事業につながるし、メンバー企業にとってもビジネスチャンスが生まれてくるのではないでしょうか。企業経営に役立つような社会的意味のあるテーマを探し出すことによって、若手会員のモチベーションは高ま

「社会に密着した問題解決型のアイデアを期待する」と山下室長。

っていくように思いますね。

■北村　情報産業というのは基本的に若い産業です。これからはもっと若い才能や人材に目を向けながら、ますます高度化・複雑化する社会環境の変化に機敏に対応していきたいですね。

異業種のアライアンスが新たな可能性を拓く

■山下　今年2月19日～20日の2日間、平安神宮で「第2回ケータイ国際フォーラム」を開催します。昨年3月に開催されたフォーラムでは5万人以上の来場者を集めて、京都のケータイ産業のポテンシャルの高さを情報発信することができました。今回は少しミニ版で、2004年には大きなイベントを開催します。2月は国内外のケータイ関連産業トップやベンチャー企業間のネットワークづくりに重点を置いて取り組んでいきたいと考えています。

■北村　いまやケータイ産業はあらゆる可能性を秘めており、私たちとしても良くも悪くもデファクトスタンダードとして最も注目をしています。ぜひ情報化について幅広い意見交換を展開していただきたいものですね。

■山下　そうですね。例えば、いまISO国際標準規格の1つとして、アメリカなどを中心に漢字のコードシステムが検討されていますが、日本で使われている漢字も中国で使われている漢字もみんな一緒の扱いになっているんです。文字というのはその国の固有文化を象徴するものなので、アメリカンスタンダードのデファクトを作られるということに大変な危機感を持っています。今後のケータイフォーラムでは、そういったことも議論していきたいと考えているんです。

■北村　京都には日本漢字能力検定協会などの機関がありますね。私たち京都府情報産業協会とそういった機関がアライアンスを組んで対応することもできるかもしれません。それぞれの文字が持っている文化や歴史的背景を生かしながら、なおかついまのコンピュータ社会に対応したシステムを提唱するということは非常に大切なことですね。今後は、行政諸機関との連携を強化していくことが必要不可欠であり、情報産業・ビジネスの活性化を進めていく上で、規制緩和やリテラシーを含めて幅広く検討してほしいと思います。私たちとしても府内の情報化事業のさらなる推進に努力していくとともに、啓発・調査事業などに全面的に協力していくつもりです。

■山下　情報産業は現代社会のシステムの中に必ず反映されています。そこの部分のレベルをあげていただくことが、ひいては府民生活の向上につながるのではないでしょうか。京都府では本年から、京都産業を活性化していくために産学公の総力を結集して「京都産学公連携機構（仮称）」を立ち上げていく予定ですが、ぜひ皆さまには情報化という観点からいろいろなご提案をしていただきたいと思います。

■北村　京都府情報産業協会が、今後もますます地域社会のお役に立つことができるよう、そしてデジタルデバイドのない健全な情報社会を実現できるように努力を重ねていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

（2002.12.10 京都ブライトンホテル：文責／企画広報委員会）

協会だより

■正会員　50社
■賛助会員　9社

事業推進委員の積極的な会員増強運動により
成果を得ることができました。
会員の皆様も入会紹介、勧誘にご協力下さい。

第1回ＳＥ研究会を開催

（平成14年11月13日／技術委員会）

SE交流会の継続的な取組みの一環として「リスク管理活動によるソフトウェアプロセス改善」（初期）をテーマに、4回シリーズで「SE研究会」を開催しています。

第1回目は「問題提起ラウンド」と位置づけ、ソフト開発プロセスでの失敗事例の認識や現状の問題点の洗い出しなどを行い、各問題点を「リスク項目」として整理。仕様変更、進捗管理など、リスク管理の重要性を改めて認識することができました。

各メンバー間で忌憚のない情報交換がなされ、各社に応じたリスク管理システムを作りあげるための第一歩が踏み出せたようです。

●第2回　（問題究明ラウンド）
平成14年12月13日開催
①リスク項目の追加補足分析
②リスク原因の究明と深層分析
③リスク項目・原因の重要度分析
④リスク計算書の作成

●第3回　（対策構想ラウンド）
平成15年1月22日開催
①リスク計算書の追加補足分析
②リスクの計算値の検討・分析
③リスク評価チェックリストの作成
④各自プロジェクト事例でリスク評価の効果確認

京都情報化フォーラムを主催

「コンピュータ・セキュリティを考える」開催

（平成14年10月16日）

平成14年度の当協会主催による情報化フォーラムは、ITの持つ利便性と脆弱性の不均衡をテーマに、安全な情報システムの確立に焦点を当て、㈱ローレルインテリジェントシステム取締役会長の鳥飼將迪様を基調講演講師に迎え開催しました。

また、セキュリティ関連製品展示を、㈱滋賀テレコム、㈱ローレルインテリジェントシステム、ハミングヘッズ㈱、ネットエージェンシー㈱、星和情報システム㈱の５社が行いました。

第5回ボウリング大会を開催

団体はオムロンソフトウェア　、個人は本郷麻咲美さん（　総合システムサービス）が優勝

平成14年11月6日、恒例の第5回ボウリング大会がMKボウル上賀茂で開催されました。

大会は26チーム78名の参加者がハイレベルの熱戦を展開。団体の部はオムロンソフトウェア　が前回の雪辱を果たして見事3回目の優勝を飾り、また個人の部は総合システムサービスの本郷麻咲美さんが驚異的なスコアで優勝しました。

競技後、表彰パーティに移り、入賞者の表彰とスピーチで和やかに進行。次回開催が待ち遠しい雰囲気の中で終了しました。上位入賞者の方々は次のとおりです。

団体の部			
	優　勝	オムロンソフトウェア	1071点
	準優勝	総合システムサービス	1030点
	3　位	京都コンピュータ学院A	1000点

個人の部			
	優　勝	本郷麻咲美　総合システムサービス	425点
	準優勝	山口　尚輝　オムロンソフトウェア	379点
	3　位	鈎　俊行　京都ソフトウェア	361点

団体優勝 喜びの声

オムロンソフトウェア　山口 尚輝さん

今回幸運にも優勝することができ、大変うれしく思っています。弊社にはボウリングクラブがあり、毎月第一土曜日にMK山科で練習会を行っていますが、以前この大会で知り合った総合システム　の方々もよく練習に来られるようで、何度か御一緒させていただいたことがあります。今後もこのようなつながりを大切にしていきたいですね。

個人優勝 喜びの声

総合システムサービス　**本郷 麻咲美さん**

日頃の運動不足がたたり、翌日は全身筋肉痛で大変でしたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。数年前から社内でボウリング部を結成して練習を重ねてきましたが、優勝できるとは夢にも思ってませんでしたので、本当にうれしいです。次回もぜひ参加させていただきたいと思っています。次は必ず団体優勝カップをいただきます！（笑）

（漢詩）倒瓶倶　ボウリング　奥村 良三

朋友集楽倒瓶倶
会催盛況不見累
無情投玉不従意
時越条枠落溝内
不顧年齢競若人
暫時止投伺成績
我組勿嘆在上位
多狙瓶浅運動好
無狙瓶則心情好

朋友集まりて
ボウリングを楽しむ
会は累を見ない盛況で
催された
無情にも投げたボールは
意に従わず
時にはレーンを越えて
溝に落ちる
年齢を顧みず
若い人たちと競う
暫く投げるのを止め
成績を伺う
我がチームは嘆くこと勿れ
上位にあり
残りピンが多ければ
運動に好し
ピンが無ければ即ち
心情に好し

新入会員の紹介

■正会員　（2002年11月入会）

テクノスタッフ有限会社

代表者名：代表取締役社長　荒木　陽治
所 在 地：〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角上る七観音町623　第11長谷ビル
TEL.075-211-0303　FAX.075-211-0204

■正会員　（2003年1月入会）

株式会社アルバス

代表者名：代表取締役　高田　文子
所 在 地：〒615-0062 京都市右京区西院坤町51-2
TEL.075-312-4498　FAX.075-312-4499

編集後記

京都府山下室長と北村会長の特別対談はいかがだったでしょうか。全ての状況が、めまぐるしく変化しています。このインターキョウトも、京情協の会報として、会員の方に待ち望まれてるような内容を満載して、次回からもっと変わります。ご期待下さい。

（企画広報委員）

お知らせ

ご逝去　（平成14年12月4日）
当協会 監事　柳田　稔 様
（ワールドビジネスセンター株式会社　代表取締役社長）

謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

第4回「ＳＥ研究会」開催のご案内

4回シリーズで開催している「SE研究会」もいよいよ最終仕上げの段階を迎えました。今回は、リスク管理活動の研究成果の発表や総合まとめなどを行いながら、ソフトウェアプロセス改善に役立つ共通認識を高めていきます。

●日時：平成15年2月14日（金）　午後6時～8時30分
●会場：平安会館　1階　金閣の間
●内容：研究成果の発表・共通認識